

大門だより

No. 7
(445号)

荒川区立大門小学校
校長 野澤 一代
令和3年11月1日

大門小ホームページ

荒川区立大門小学校

検索

《本校の教育目標》 考える子 やさしい子 たくましい子

「継続は力なり」

校長 野澤 一代

11月の花。ツワブキ、コスモス、薔薇、山茶花。薔薇は都電の線路際に咲き始めました。シクラメン、パンジー、ベゴニア、サルビア。今年の秋の大門小の正門は花盛りです。環境美化委員会（今年度発足の委員会です。）の教員と児童でとても世話をしてくれています。寒くなってもしばらく心と目で楽しめそうです。

昨年度の11月号でも実は書いたのですが、まさに、継続は力なりのお話を継続して「躰（しつけ）」について書きます。

今年度も機会のあるごとに全校朝会で、「あいさつ」の話をします。「挨拶をしよう」と代表委員会がプロジェクトを立ち上げようとしています。挨拶をすることは、基本的な生活習慣の一つです。「おはようございます」から一日が始まり、「いただきます」「ごちそうさま」、「行ってきます」「ただいま」、「ありがとう」「ごめんなさい」、「おやすみなさい」。人として生活するうえで、挨拶はとても大切な習慣です。

「躰」とは、礼儀作法をその人の身に付くように教え込むことという意味があり、「教える」「教育」とは少し違うニュアンスがあります。「躰」は「身に付けさせる」、教育は「能力を伸ばす」ことに重きを置いています。でもどちらも「継続は力なり」です。

大門小学校の子供たちは、昨年度から「校長先生は、本気で挨拶ができる子を育てたいと考えているようだ。」と感じています。朝の挨拶だけではなく、廊下ですれ違ったら、「こんにちは」や会釈をしてくれる児童まで低学年、高学年問わず増えてきました。そんな中に、どんなにこちらから「おはようございます」と声を掛けても、知らん顔をして通り過ぎる子もいます。「何か悩んでいるのかな？」と心配になります。

保護者の皆様は、自分のお子さんが外でどのように挨拶をしているのかなかなか分かりませんか。そうです。算数を理解しているかはテストの結果や宿題の様子で分かります。「躰」の結果は、社会で発揮されていくものなので、保護者の目からは気付きにくいものです。挨拶や返事のよい子、笑顔の人に向けられる子は人から愛されます。人間関係作りの入り口は広いに越したことはありません。

「継続は力なり」まず、保護者の方がお手本を示すのもいいですね。私はマスク越しでも大きな声が出て、マスクから出ている目は全力で笑顔です。一緒に子供たちを育てていきましょう。

